



秋田鉱業専門学校の開学以来、秋田大学は約2万5千人の鉱山技術者を輩出してきた。鉱業博物館の収蔵標本には世界中で活躍する大学OBから寄贈されたものが多い。秋田でなければできなかった博物館なのだ。

最初に種明かしをしようとしてしまうと、著名な芸術家の彫刻作品かとも思われるこの写真は、秋田市手形の秋田大学鉱業博物館に展示されているウミユリの化石である。ウミユリはヒトデやウニの仲間の海洋動物で、この化石はモロッコで採取されて同館に寄贈されたものである。これを美しいと感じるかどうかは人それぞれだと思うが、あまりにも芸術的な造形には思わず息をのむ。

現在の秋田大学工学資源学部は、改称前の「鉱山学部」という学部名が県民にはなじみがあるかもしれない。さらにその前身となる秋田鉱業専門学校の開学から数えて100年を迎えるにあたって、鉱業博物館では平成23年、約5カ月間休館して大幅リニューアルを行った。以前より一般市民にも親しみやすい展示内容になっている。

展示されている鉱物・鉱石は2千点余り、化石は500点ほど。「鉱業」というだけで少しとつきにくい印象を持つ人もいるだろうが、展示されている鉱石や化石を彫刻になぞ

らえて眺めていると、それらがまるで才能豊かな芸術家がつくり出した作品のように見えてくる。すべてが地球の営みの中で生み出された造形であるとすれば、地球はまさに才能あふれる芸術家だ。見方を変えれば、鉱業博物館は地球という芸術家の彫刻作品を展示する美術館でもあるのだ。

特に大きな博物館ではないので、1時間あれば全体を見て回ることができ、それではあまりにもったいない。芸術作品を鑑賞する時のように、たっぷり時間を用意して一つひとつの鉱石や化石を愛でてみたい。

院内、阿仁、尾去沢、小坂など、秋田は国内有数の鉱山集積地だった。その鉱山会社の後ろ盾があって、鉱山技術者を養成する目的で秋田鉱業専門学校は開設された。国内唯一の教育機関だった。鉱業博物館のコレクションも日本一と言っているだろう。これは、秋田がもつと自慢してもいいことだと思う。

冬の日、ぜひ鉱業博物館にお出かけいただきたい。

## 地球は偉大な芸術家